

## 地方都市における生活環境とソーシャルキャピタルに関する意識調査分析

### The People's Attitude Survey for Living Environment and Social Capital in a Provincial City

谷本真佑\*・南 正昭\*

Shinsuke TANIMOTO and Masaaki MINAMI

**要旨：**本研究は、住民による生活環境評価に、ソーシャルキャピタルがどのような影響をもつのかを調べたものである。地方都市における性格の異なる2つの地区でのアンケート調査結果に基づき、周囲への信頼といったソーシャルキャピタルと、17項目からなる住民による生活環境評価の関連性を分析し、その相互関係を定量的に明らかにすることを目的とした。分析の結果、住民による生活環境評価は、居住地区の特徴ならびに回答者属性と関係があることを確認するとともに、その住民のもつソーシャルキャピタルと強く関係していることを明らかにした。

**キーワード：**生活環境、ソーシャルキャピタル、住民意識調査

**Abstract :** This paper investigates the relationship between the people's attitude for living environment and the social capital. Based on the survey in two areas within a rural city which have each indigenous feature, we analyzed the association between generalized trust in other people as an aspect of social capital and 17 items that represent the people's attitude for living environment and tried to clarify the mutual association between them quantitatively. In conclusion, the people's attitude for living environment is associated with not only a living area and respondent's attributes but also generalized trust in other people significantly.

**Key Words :** living environment, social capital, the people's attitude survey

#### はじめに

わが国の地方部においては、少子高齢化や人口減少等に伴う活力の低下に対応して、地域の再生のための議論が盛んに行われてきている。住民による地域づくりへの参加や地域計画などの政策の立案において、住民自身がその地域をどのように評価しているかを知ることは重要であり、そのためのひとつの手段としてアンケート調査に基づく生活環境評価が知られている。

また近年、地域づくりにおいて、住民の自主的活動や社会参加を促進する役割を果たすものとして、住民同士のつながりや信頼関係等の重要性がソーシャルキャピタルという概念で注目されている。

本研究では、周囲への信頼や行事への参加等として顕在化するとされるソーシャルキャピタルが、住民の生活環境評価にどのような影響を与えているかを定量的に明らかにすることを目的とする。

ソーシャルキャピタルについては、近年わが国においても研究や政策への適用が試みられている。川上(2005)は、地域力とソーシャルキャピタルを対比しながら、詳細な文献調査や政策事例に基づき概念の整理を試みて

いる。統一的な定義づけができる状況にないとしながらも、地域力の根源であるソーシャルキャピタルの増進のための制度や仕組みが求められていることを指摘するとともに、実践的な知見を蓄積し現場にフィードバックすることの重要性を課題として掲げている。芝池ら(2007)は、ソーシャルキャピタルの構成要素である参加実態と信頼などの心理的要素の関連を明らかにすることを試みている。地域における周囲への信頼とまちづくり活動への参加との間には必ずしも直接的な関係が見られないという一方で、今後の取り組み意識の醸成には大きな影響をもつことを明らかにした。また、吉川ら(2006)は、地域行事への参加と、参加による交流の促進について定量的な分析を行い、行事を通じた地域づくりの推進においては、神社行事や運動会などの行事の種類に着目した視点が重要であることを実証している。

このように地域づくりにおけるソーシャルキャピタルの重要性が注目されるとともに、その内容や効果に関する研究が進められているが、ソーシャルキャピタルと住民による生活環境評価との関係について研究した事例は見当たらない。本研究では、人口減少、高齢化が急速に進行する岩手県沿岸・東北地域において、それらの地域を牽引する役割が期待され、財政縮小化でコミュニ

\*岩手大学工学部建設環境工学科 都市計画学研究室

ティカを活かした地域づくりが求められる都市の一つである岩手県久慈市を研究対象地域とした。生活環境評価の結果として定量化される住民の地域の捉える意識が、在住する地区の特徴や個人属性ばかりではなく、周囲への信頼といった住民のソーシャルキャピタルに強く関連することを明らかにした。

## 1. 研究方法

### 1.1 調査対象地域の概要

久慈市は、岩手県沿岸北部に位置する都市で、2008年4月末日現在で39,101人の人口を有し、県の出先機関である地方振興局の1つが置かれるなど、沿岸北部の地域振興に中心的な役割を担っている。久慈市は、過去に合併を繰り返してきた経緯を持ち、現在の久慈市は、1954年に当時の久慈町・夏井村・侍浜村・長内町・大川目村などの7町村の合併により誕生した旧久慈市と、隣接する旧山形村との合併(2006年)により形成されたもので、現在においても各地区で異なる特徴が見られる。

地方部の多くでみられる少子高齢化・人口減少の傾向は久慈市でも見受けられ、2006年での高齢化率は23.3%、1996年から2006年までの人口減少率は約6%となっている。

2007年5月には、東北地方では2番目に中心市街地活性化基本計画が国の認定を受けるなど、地域づくりへの関心の高い市として知られている。

### 1.2 調査概要

本研究では、久慈市全域に実施した生活環境評価ならびにソーシャルキャピタルに関する10,648票の住民意識調査を実施した。調査は2008年1月16日から1月31日の期間に、調査票の郵送配布・回収により行った。

本調査での質問項目は、日常の通勤・買物・通院等における交通手段や移動頻度、生活環境に対する満足度、回答者自身や地域に対する考え方(ソーシャルキャピタルに関連する項目)、回答者属性の4つの内容から構成され、それぞれ20項目程度の質問を設定した。このうち本稿では、久慈市の生活環境、回答者属性ならびに、ソーシャルキャピタルに関連する項目への回答結果をもとに分析を行った。

生活環境に関する項目では、地方都市の生活環境の多面的な構成要素に着目し、「交通」「子育て環境」「自然環境」「医療・福祉」等について、久慈市民の日常生活に密接な関わりがあると考えられる17項目を設定し評価を尋ねた。その上で、最後の質問に「久慈市内全体に対する満足度」を総合評価として尋ねている。回答者には、これらの設問に対して、「不満」・「どちらかといえば不

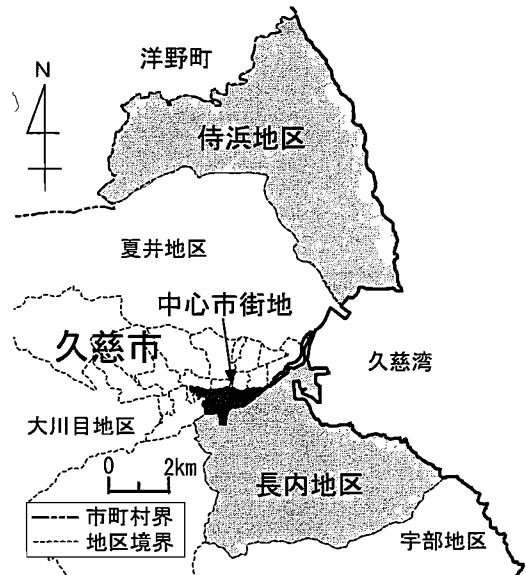


図-1 研究対象地域

表-1 調査対象地区の概要(2005年10月現在)

	人口	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
侍浜地区	2,783	34.50	80.67
長内地区	5,261	52.62	99.98

表-2 回答者属性

		(%)	~30代	40代	50代	60代	70代~	未回答
侍浜地区 n=305	男性	6.6	9.8	11.1	12.8	9.2	0.0	
	女性	7.9	9.8	13.8	11.8	6.2	0.3	
	未回答	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	
長内地区 n=361	男性	11.4	9.7	10.8	10.0	6.1	0.0	
	女性	15.8	11.6	11.6	8.6	3.9	0.6	
	未回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

満」・「どちらでもない」・「どちらかといえば満足」・「満足」の5段階で評価していただいた。本研究では、これらの生活環境項目と主として住民の人間関係に着目したソーシャルキャピタルとの関連を分析する。

ソーシャルキャピタルに関連する質問は、内閣府(2002)の報告において代表的な例として挙げられているイギリス国立統計局の調査マトリックスより、回答者が比較的答えやすいと思われる項目を中心に設定し、各質問項目について4ないし5つの選択肢から最も当てはまるものを1つ選択していただいた。

本稿では、久慈市の中心市街地から比較的遠くに位置する侍浜地区と、中心市街地から比較的近い長内地区の2地区を対象とし、両地区について比較分析を行った。両地区の人口、面積、人口密度は表-1に示すようである。侍浜地区は、中心市街地から北側に離れたところに位置する郊外地区で、地区内には大規模な商業施設はなく、低密度な住宅が疎らに存在する。一方長内地区は、

表一 3 生活環境項目と総合評価の関係

従属:総合評価		n	(%)	粗オッズ比
公共交通の利便性	非満足	634	16.1	3.13 **
	満足	32	37.5	
高齢者への配慮	非満足	606	14.5	4.50 **
	満足	60	43.3	
商業施設の充実度	非満足	569	12.7	5.27 **
	満足	97	43.3	
小・中学校の充実度	非満足	474	7.8	7.91 **
	満足	192	40.1	
地域の人との繋がり	非満足	499	10.0	5.58 **
	満足	167	38.3	
自然環境	非満足	308	5.8	5.90 **
	満足	358	26.8	
行政サービス	非満足	581	10.5	14.12 **
	満足	85	62.4	
医療施設の充実度	非満足	517	8.5	9.53 **
	満足	149	47.0	
道路の充実度	非満足	520	8.8	8.98 **
	満足	146	46.6	
文化施設の充実度	非満足	492	7.3	10.29 **
	満足	174	44.8	
バリアフリー度	非満足	623	15.2	4.40 **
	満足	43	44.2	
自転車の乗りやすさ	非満足	603	13.9	5.62 **
	満足	63	47.6	
子どもの遊び場の充実	非満足	614	13.7	8.60 **
	満足	52	57.7	
福祉施設の充実	非満足	574	10.6	11.43 **
	満足	92	57.6	
大気汚染や騒音の少なさ	非満足	370	6.5	6.30 **
	満足	296	30.4	
子育て環境	非満足	528	9.1	9.17 **
	満足	138	47.8	
治安	非満足	446	5.6	11.44 **
	満足	220	40.5	

\*95%信頼区間にて有意性が見られた項目  
\*\*99%信頼区間にて有意性が見られた項目

中心市街地の南側と接する地区で、地区内には郊外型商業施設が複数立地するとともに、久慈市内において住宅が集中している地区の1つである。

調査の結果、待浜地区で305票、長内地区で361票の有効回答が得られた。回答者の属性は表一2に示されるとおりである。

### 1.3 分析方法

本研究では、17項目にまとめた生活環境全般に対する住民の満足度と総合評価の関連性について、回答者属性やソーシャルキャピタルに関する質問項目への回答結果により分類した回答者群ごとに分析し、生活環境評価に対するソーシャルキャピタルの影響を調べた。本論文での分析手順の詳細は、次のようである。

まず、各質問項目に対し4ないし5段階で回答された結果を2段階に集約した。集約にあたり、生活環境項目ならびに総合評価では、「満足側(満足、やや満足)」もしくは「非満足側(どちらでもない、やや不満、不満)」に、ソーシャルキャピタルに関連する項目では、それが高いもしくは低いとする回答に、回答者属性ではその内容を考慮し、それぞれ2段階に集約した。

表一 4 ソーシャルキャピタル関連項目・回答者属性と総合評価の関係

従属:総合評価		n	(%)	粗オッズ比
居住地区	待浜地区	305	21.6	0.56 **
	長内地区	361	13.3	
性別	男性	324	19.8	0.70
	女性	340	14.7	
年齢層	50代以下	279	10.0	2.55 **
	60代以上	384	22.1	
同居人の有無	同居人なし	78	16.7	1.05
	同居人がいる	584	17.3	
以前の居住地	久慈市外	211	13.7	1.22
	久慈市内	319	16.3	
免許の有無	非保有	99	29.3	0.43 **
	保有	564	15.1	
久慈市民の一員と感ずるか	全く感じない あまり感じない どちらでもない やや感じる とても感じる	273	9.5	2.74 **
		393	22.4	
地域の行事への参加	ほとんど参加しない たまに参加する ときどき参加する よく参加する	382	12.0	2.30 **
		284	23.9	
地域住民への信頼	誰もいない 少数の人 半程度の人 ほとんど全ての人	377	10.1	3.18 **
		289	26.3	
地域の人とのつき合い(面識・交流)	ほとんどない 少数の人 半程度の人 ほとんど全ての人	390	11.0	2.79 **
		276	25.7	
経済的余裕	ほとんどない あまりない ややある 十分ある	546	15.0	2.06 **
		120	26.7	

\*95%信頼区間にて有意性が見られた項目  
\*\*99%信頼区間にて有意性が見られた項目

次に、2段階に集約したデータをもとに、総合評価と生活環境項目・回答者属性ならびにソーシャルキャピタルに関する項目との関連性について分析した。まず、総合評価とその他の項目との関係を、2つの回答者群のオッズの比をとることで得られ、回答結果の差の有意性が判定できる粗オッズ比より確認した。続いて、待浜地区と長内地区における住民意識の違いを検証することを目的に、総合評価と各生活環境項目の関連性について、調整オッズ比を居住地区別に算出することで考察を行った。さらに、周囲への信頼によって測られたソーシャルキャピタルが、住民による生活環境評価に影響するか否かを検証するため、ソーシャルキャピタルに関する項目への回答結果により回答者を分類した上で、調整オッズ比を用いてそれらの関連性を調べた。調整オッズ比は、2項ロジット回帰モデルのパラメータの推定値として得られ、独立変数間の交絡の影響を取り除いた従属変数への影響度を示している。

## 2. 各評価項目と総合評価の関係

### 2.1 生活環境項目と総合評価の関係

表-5 待浜地区における生活環境項目と総合評価の関係

従属:総合評価 待浜 (n=305)	調整オッズ比			
	case 1	case 2	case 3	case 4
公共交通の利便性	41.53	39.96	53.17	41.46
高齢者への配慮	1.05	—	—	—
商業施設の充実度	0.81	—	—	—
小中学校の充実度	1.75	1.70	—	—
地域の人との繋がり	0.66	0.68	—	—
自然環境	7.48	7.59	7.63	9.12
行政サービス	1.94	2.03	1.96	—
医療施設の充実	2.83	2.73	2.68	2.93
道路の充実	2.79	3.02	2.99	2.87
文化施設の充実	2.31	2.29	2.21	2.54
バリアフリー度	0.43	0.42	—	—
自転車の乗りやすさ	1.32	—	—	—
子どもの遊び場の充実度	1.85	—	—	—
福祉施設の充実度	4.02	4.45	4.53	4.78
大気汚染や騒音の少なさ	2.01	1.96	1.89	—
子育て環境	3.72	3.98	3.64	4.26
治安	2.90	2.79	2.83	3.32
定数項	0.00	0.00	0.00	0.00

■ 99%信頼区間にて有意性が見られた項目  
 ■ 95%信頼区間にて有意性が見られた項目

各生活環境項目と総合評価の関係を示す粗オッズ比を算出したところ、表-3に示される結果が得られた。表中のnは、その評価項目に対し該当する回答を示した回答者数を示し、そのうち「総合評価」に対して満足側回答を示した回答者の割合が、表中の(%)の欄に記されている。粗オッズ比が1.00から離れるほど総合評価との回答傾向の類似度が高いことを示し、その傾向に統計的な有意性が認められた項目には、表中の粗オッズ比に星印が付されている。

表-3中の「n」より、「自然環境」「大気汚染や騒音の少なさ」では満足側回答で半数前後が占められたものの、その他の項目では非満足側回答の占める割合が大きく、全体的に満足側回答の少ない傾向が読み取られた。

粗オッズ比を見ると、いずれの生活環境項目においても99%信頼区間で有意性が見られ、総合評価との回答傾向の類似性が示された。「行政サービス」「文化施設の充実度」「福祉施設の充実」「治安」においては、粗オッズ比の値が他の項目に比して高い傾向にあり、回答傾向の類似性が特に高い項目であると理解された。

## 2.2 回答者属性・ソーシャルキャピタル関連項目と総合評価の関連

回答者属性ならびにソーシャルキャピタルに関連する項目と総合評価について粗オッズ比を算出したところ、表-4に示される結果が得られ、「久慈市民の一員と感じるか」「地域の行事への参加」「地域住民への信頼」「地域の人とのつき合い」などで有意性が示され、いずれの質問項目においても、ソーシャルキャピタルの高いと思われる回答において、総合評価に対する満足側回答の割合が高いことが確認できる。また、「居住地区」においても有意性が示され、回答者の居住地区による総合評価の差が示される結果となった。このほか、「年齢層」や「自身の将来への不安」「経済的余裕」においても有意性が確認

表-6 長内地区における生活環境項目と総合評価の関係

従属:総合評価 長内 (n=361)	調整オッズ比			
	case 1	case 2	case 3	case 4
公共交通の利便性	3.25	3.57	3.63	—
高齢者への配慮	0.23	0.23	0.23	—
商業施設の充実度	2.77	2.83	2.75	5.43
小中学校の充実度	1.87	1.88	2.66	4.66
地域の人との繋がり	2.26	1.89	—	—
自然環境	0.52	—	—	—
行政サービス	8.49	8.37	10.27	9.14
医療施設の充実	2.19	2.56	2.81	—
道路の充実	3.11	2.54	3.08	—
文化施設の充実	1.89	1.62	—	—
バリアフリー度	1.26	—	—	—
自転車の乗りやすさ	0.45	—	—	—
子どもの遊び場の充実度	2.52	2.36	3.61	5.02
福祉施設の充実度	3.27	2.39	2.37	—
大気汚染や騒音の少なさ	5.71	5.23	5.51	6.02
子育て環境	1.74	1.67	—	—
治安	5.89	5.57	6.23	5.60
定数項	0.00	0.00	0.00	0.00

■ 99%信頼区間にて有意性が見られた項目  
 ■ 95%信頼区間にて有意性が見られた項目

表-7 居住地区別に見た回答者属性・ソーシャルキャピタル関連項目と総合評価の関係

従属:総合評価	待浜地区			長内地区			
	n	(%)	粗オッズ比	n	(%)	粗オッズ比	
性別	男性	151	23.2	0.85	173	16.8	0.56
	女性	152	20.4		188	10.1	
年齢層	50代以下	180	16.7	1.77	256	11.3	1.77
	60代以上	124	28.2		103	18.4	
同居人の有無	同居人なし	27	18.5	1.24	51	15.7	0.81
	同居人がいる	278	21.9		306	13.1	
以前の居住地	久慈市外	86	14.0	1.96	125	13.6	0.87
	久慈市内	112	24.1		207	12.1	
免許の有無	非保有	51	33.3	0.49	48	25.0	0.39
	保有	251	19.5		313	11.5	
久慈市民の一員と感じるか	全く感じない あまり感じない どちらでもない	123	12.2	2.80	150	7.3	2.69
	やや感じる とても感じる	182	28.0		211	17.5	
地域の行事への参加	ほとんど参加しない たまに参加する ときどき参加する	140	17.9	1.52	242	8.7	3.09
	よく参加する	165	24.8		119	22.7	
地域住民への信頼	誰もいない 少数の人	138	11.6	3.26	239	9.2	2.67
	半分程度の人 ほとんど全ての人	167	29.9		122	21.3	
地域の人とのつき合い(面識・交流)	ほとんどない 少数の人	124	11.3	3.17	266	10.9	2.04
	半分程度の人 ほとんど全ての人	181	28.7		95	20.0	
経済的余裕	ほとんどない あまりない ややある	264	20.5	1.61	282	9.9	3.08
	十分ある	41	29.3		79	25.3	

■ 99%信頼区間にて有意性が見られた項目  
 ■ 95%信頼区間にて有意性が見られた項目

された。

## 3. 居住地区およびソーシャルキャピタルによる生活環境評価の差異

### 3.1 居住地区による生活環境項目と総合評価の関係

#### (1) 待浜地区

表-8 生活環境項目と総合評価の関係

地区: 信賴できる地域住民:	待浜地区 (n=305)								長内地区 (n=361)							
	(a) 多い (n=167)				(b) 少ない (n=138)				(c) 多い (n=122)				(d) 少ない (n=239)			
	case 1	case 2	case 3	case 4	case 1	case 2	case 3	case 4	case 1	case 2	case 3	case 4	case 1	case 2	case 3	case 4
公共交通の利便性	70.42	63.20	67.16	6.01	—	—	—	36.97	33.12	—	—	33.24	29.52	9.98	—	
高齢者への配慮	0.80	—	—	1.81	2.22	—	—	0.10	0.10	—	—	0.11	0.12	—	—	
商業施設の充実度	0.84	—	—	1.88	—	—	—	10.31	10.07	8.33	7.66	4.12	4.04	—	—	
小中学校の充実度	1.65	—	—	3.28	3.30	4.47	5.00	9.85	2.45	10.95	11.97	0.77	—	—	—	
地域のひととの繋がり	0.20	0.26	—	4.39	4.63	4.34	—	0.60	0.60	—	—	3.40	3.33	—	—	
自然環境	10.52	12.75	2.06	1.74	0.85	—	—	0.84	—	—	—	0.12	0.11	0.24	—	
行政サービス	1.21	—	—	—	6.22	5.29	4.50	9.33	10.60	3.74	5.72	—	37.99	35.67	15.57	32.23
医療施設の充実	3.29	4.39	—	3.29	1.89	1.90	—	—	1.19	—	—	—	4.20	4.27	9.88	10.25
道路の充実	3.15	3.30	—	—	1.52	—	—	—	—	17.28	—	—	1.16	—	—	
文化施設の充実	3.06	3.18	2.81	—	—	14.59	16.84	21.42	0.25	0.25	—	—	14.08	11.19	6.70	
バリアフリー度	0.32	0.26	—	—	2.42	—	—	—	0.01	0.00	0.01	0.01	5.33	5.80	—	—
自転車の乗りやすさ	2.02	1.98	—	—	1.66	2.19	—	—	0.28	0.29	0.15	—	1.13	—	—	—
子どもの遊び場の充実度	2.63	2.37	—	—	1.28	—	—	—	0.42	0.35	—	—	5.63	6.36	14.31	25.89
福祉施設の充実度	7.07	8.98	8.99	5.95	1.41	2.33	2.97	—	3.92	4.25	2.60	—	3.29	3.07	—	—
大気汚染や騒音の少なさ	1.17	—	—	—	6.28	4.40	5.23	7.53	1.38	—	—	—	12.26	12.70	4.37	—
子育て環境	7.28	8.35	7.55	5.90	1.96	—	—	—	17.97	20.13	9.50	9.52	1.94	1.95	—	—
治安	3.07	5.14	5.01	4.73	0.66	—	—	—	37.53	39.90	24.05	26.39	37.77	37.77	18.97	12.33
定数項	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

表中の数値は調整オッズ比

■ 99%信頼区間に有意性が見られた項目

■ 95%信頼区間に有意性が見られた項目

本章では、回答者の居住地区による生活環境項目と総合評価の関連性について、調整オッズ比を用いて調べた。表-5は、待浜地区の回答者を対象に算出した調整オッズ比であり、case1は、表中の全生活環境項目を分析対象として得られた調整オッズ比、case2以降は、case1の結果ならびに総合評価との間に求められた連関係数より、総合評価との関連性が他の項目に比して小さいと判断された項目について、その一部または全てを分析対象から除外して得られた調整オッズ比を示している。

表-5では、「医療施設の充実」「福祉施設の充実度」「子育て環境」「治安」や、地方郊外部において注目される「公共交通の利便性」「自然環境」「道路の充実」において、いずれのcaseにおいても一貫して有意性が示されている。特に「公共交通の利便性」における値は、他の項目に比して非常に大きく、総合評価との関連性の高さが示されている。調査実施当時、久慈市内を運行する民間業者のバスの撤退表明に伴い、同地区の路線バスならびに久慈市による通院者向けのバス路線再編が検討されており、待浜地区の回答者の6割以上が同項目に対して「不満」「やや不満」と回答していることから、今後の動向を含めたバス交通への関心の高さが影響しているものと考えられる。

また、「自然環境」においても、他の項目に比して調整オッズ比が高い傾向が見られる。待浜地区は、久慈市内において比較的自然而豊かな地区で、同項目における満足側回答も半数に達していることから、良好な自然環境が総合評価を押し上げているといえる。これら以外で有意性が示された項目に対しては、いずれも非満足側回答が半数以上を占め、総合評価を向上させる評価項目とはいえないと判断できる。

## (2) 長内地区

長内地区の回答者を対象に、生活環境項目と総合評価の関連性を調整オッズ比より分析したところ、表-6に示す結果が得られた。長内地区では、「商業施設の充実度」「行政サービス」「大気汚染や騒音の少なさ」「治安」に対し、いずれのcaseにおいても有意差が示された。「治安」以外の評価項目は、待浜地区(表-5)では有意差が見られなかった項目であり、その多くが都市中心部において注目される評価項目と見られ、居住地区により住民意識に差のあることが確認された。調整オッズ比の値をみると、「行政サービス」や「大気汚染や騒音の少なさ」において、他の項目に比して高い傾向にある。これらの項目に対する評価をみると、「行政サービス」に対する評価の半数強は「不満」「やや不満」であり、同項目への不満が総合評価を低下させているものと判断できる。一方、「大気汚染や騒音の少なさ」に対しては満足側回答が半数近くを占め、総合評価を向上させる評価項目であると理解される。

## 3. 2 居住地区別に見たソーシャルキャピタル関連項目と総合評価の関係

前項までの分析により、居住地区により生活環境項目と総合評価の関係に差のあることが明らかになった。本項では、ソーシャルキャピタルに関連する質問項目と総合評価の関連性に、居住地区による差が見られるか否かを粗オッズ比を用いて調べた。分析結果は表-7に示すとおりである。表の書式は表-4とほぼ同様である。

両地区とも、粗オッズ比に有意性が示された項目がいくつか存在し、同じ居住地区の住民においても、ソーシャルキャピタルに関連する項目によって総合評価に差が見られることが確認された。

侍浜・長内の両地区で有意性が示されている項目は、「久慈市民の一員とを感じるか」「地域住民への信頼」ならびに「地域のひととのつき合い(面識・交流)」であり、特に「地域住民への信頼」は、侍浜地区での粗オッズ比の最大値を示し、長内地区においても「久慈市民の一員とを感じるか」で示された最大値(2.69)とほぼ同等の値(2.67)となり、「地域住民への信頼」と総合評価の関連性が示される結果が得られた。「地域の行事への参加」「経済的余裕」は、長内地区では有意性が見られた一方、侍浜地区では有意性が見られなかった。

### 3.3 居住地区ならびに「地域住民への信頼」による生活環境項目と総合評価の関係

前項での結果を受け、本項ではソーシャルキャピタルに関連する項目として「地域住民への信頼」に着目し、地域住民への信頼感が、生活環境項目と総合評価の関係にどのような影響をもつのかについて分析する。分析にあたり、居住地区で分けられた回答者を、「地域住民への信頼」への回答結果によりさらに2群に分けた計4つの回答者群を対象とし、調整オッズ比により分析を行った。

表-8は分析結果であり、(a)は侍浜地区において「地域住民への信頼」に対する回答が「ほとんど全ての人(を信頼できる)」「半分程度の人」(以降「信頼側」と表記)との回答者、(b)は「少数の人」「誰もいない」(以降「非信頼側」と表記)との回答者を対象として得られた結果である。同様に(c)は長内地区の信頼側回答者、(d)は非信頼側回答者を対象とした分析結果を示している。

侍浜地区の信頼側(表-8(a))で有意差の見られた項目の多くは、侍浜地区の回答者全員を対象とした分析(表-5)においても有意差が示され、両者に類似傾向が見られる一方、非信頼側(表-8(b))では、有意性の示された項目は信頼側ほど多くは見られなかった。また、信頼側・非信頼側のいずれにおいても有意性の示された項目は見られず、「地域住民への信頼」により生活環境評価に関わる住民意識が異なる傾向をもつことが明らかにされた。両者の調整オッズ比を比較すると、信頼側では「公共交通の利便性」の値(case4)が他の項目に比して大きく、非信頼側では「文化施設の充実度」の値(case4)が大きいことから、「地域住民への信頼」と、年齢層や在住年数、職業等の個人属性に関連があることが示唆された。

長内地区の結果についても同様に見ると、信頼側(表-8(c))ならびに非信頼側(表-8(d))で有意性の示された項目に差のあることが確認できる。「地域住民への信頼」によって生活環境の捉え方に差のあることが、長内地区でも確認される結果が得られた。長内地区の全回答者を対象とした際(表-6)に一貫して有意性が示された項目が、信頼側ならびに非信頼側のそれぞれに分かれ

て存在し、侍浜地区とは異なる傾向が見られた。

### おわりに

本研究では、岩手県久慈市における性格の異なる侍浜地区と長内地区を対象とし、各生活環境項目と総合評価に係る住民の意識をみることにより、周囲への信頼といったソーシャルキャピタルが生活環境評価に与える影響について分析したものである。本稿で得られた知見は以下のものである。

まず、生活環境項目およびソーシャルキャピタルに関連する項目と、総合評価の関連性を示した。また、生活環境項目と総合評価の関係を居住地区別に求め、両者の関係に明確な地域差のあることを確認した。さらに、両地区における「地域住民への信頼」と総合評価との関連性を示すとともに、同じ地区の住民においても「地域住民への信頼」によって生活環境項目と総合評価の関係に差異が見られることを明らかにした。これにより、住民の地域を捉える意識の表れとしての生活環境評価は、居住地区の特徴や回答者属性ばかりではなく、周囲への信頼といった住民のソーシャルキャピタルに関係することを明らかにすることができた。中心市街地に比較的近い地区と離れた地区では、生活環境やソーシャルキャピタルへの意識が異なる傾向にあること、また同一地区の住民においても、ソーシャルキャピタルにより生活環境への意識が異なることが読み取られた。

ソーシャルキャピタルという概念を地域づくりにフィードバックしていく上で、これらの相互関係を理解することは重要と考えられる。今後、調査票数をさらに充実させる方策ならびに、ソーシャルキャピタルと個人属性との関連性の分析を通し、地域づくりの支援策に繋げるよう研究を続けたい。

### 引用文献

- 川上牧子(2005)「地域力」と「ソーシャル・キャピタル」の概念に関する計画論的考察。『都市計画論文集 No.40-3』, pp.205-210, 日本都市計画学会, 東京。
- 芝池 綾・谷口 守・松中亮治(2007)意識調査に基づくソーシャル・キャピタル形成の構造分析:地域への「誇り」や「信頼」がもたらす影響。『都市計画学論文集 No.42-3』, pp.343-348, 日本都市計画学会, 東京。
- 内閣府国民生活局市民活動促進課(2002)ソーシャル・キャピタル:豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて。内閣府, 東京, 177pp。
- 吉川郷主・市田行信・水野 啓・小林慎太郎(2006)地域行事への参加とその関連要因。『環境情報科学論文集 20』, pp.229-234, 環境情報科学センター, 東京。